

平成30年(2018年)4月7日(土曜日)

三島駅南口東街区再開発

経済界「活性化に好影響」

市民団体、反対の声も

三島駅南口東街区の再開発事業者公募で、三島市は6日、ミサワホームを代表幹事とする共同企業体(JV)が最優秀提案者に決まったと正式発表した。ホテル建設が進む西街区と併せて同駅前開発が進展した形になり、地権者や地元経済界は歓迎の意向を表明した。一方で市民団体からは反対の声も聞かれる。

(三島支局・河村英之)



再開発の完成イメージ(市提供)

「長年の懸案がようやくスタートラインに立った」

東街区の市街地再開発準備組合の井上裕幸

三島駅南口東街区の再開発

プロポーザル審査の末、5企業体からミサワホームを代表とする共同企業体(JV)が最優秀提案者に選ばれた。地権者との協議がまとまれば5月にも正式事業者になる。マンション2棟、健康医療産業を軸とした商業棟、駐車場棟を整備するという事業提案で、

あり、そうした中で24人の地権者は高齢化が進んだ。今回が最後の好機と捉える人は少なくないといい、「組合一丸で実現に努める」とした。

三島商工会議所の稲田精治会頭と三島市観光協会の山形武弘会長は「経済活性化に好影響」「観光振興を後押しするはず」などと述べ、ともに期待感を強調した。両団体は昨年10月、再開発に「特段の推進」を求める要望書を市に提出していた。

これに対し、NPO法人グラウンドワーク三島の渡辺豊博専務理事は「水の都・三島の品格を破壊する乱開発だ」と強く反発。地下水の枯渇や富士山眺望の阻害、財政的な市民負担など懸念材料を挙げ、「市民力を結集して阻止する」と対立姿勢を鮮明にした。同再開発を巡っては川勝平太知事が「拙速でない方が良い」と発言した経緯もある。

総事業費220億円。完成目標2025年。

同駅南口は現在、東急グループのホテル建設が進む西街区を含めて約20年にわたって塩漬け状態が続いていた。しかし近年、首都圏へのアクセスの良さや伊豆半島の玄関口としての重要性から土地の評価が見直され、開発を後押ししている。